

# ケンコーマヨネーズ株式会社 静岡富士山工場

## ■国内最大手の業務用食品メーカー

ケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場は、同社本体の工場としては7番目、関連会社も含めると16番目の工場・拠点として2014（平成26）年に富士市大淵の富士山フロント工業団地にオープンし、2019年2月からは第2工場も稼働を開始しました。同社はマヨネーズやドレッシングなどの調味料、卵製品やお惣菜などの国内最大手の業務用食品メーカーです。

静岡富士山工場では厚焼き卵や錦糸卵など焼成たまごと呼ばれる卵製品を年間約9,000トン以上製造する、同社の基幹工場のひとつです。およそ230人の従業員が働いていますが、ほとんどが富士・富士宮地区から通っています。

同工場ではユニバーサル就労で就労体験を行った20代の男性（Aさん）を7月からパートナー社員（有期の契約社員）として採用したほか、8月下旬からは20代の女性もパートナー社員として採用しました。

## ■「地域貢献」が社是

同社の大きな特徴は「社是」にうたわれている「地域貢献」を工場ごとに実践していることです。静岡富士山工場では操業開始の2014年からすぐ近くにある富士特別支援学校の卒業生を採用し続けています。これまでに10人が同工場で勤めを始めて、家庭の都合で辞められた1人を除いて他の方たちは今でも仕事を続けています。また、ベトナムからの技術実習生も30人ほど受け入れています。

同工場が、富士市が力を入れているユニバーサル就労について知ったのは、市ユニバー

サル就労支援センターの支援員から協力を求められたのがきっかけでした。もともと特別支援学校卒業生を採用するなど障害者への接し方には慣れていたこともあって「就職困難な事情を抱える人たちに対してもマイナスイメージをもつ社員はほとんどいませんでした」と牧立也・執行役員統括工場長は話しています。責任者の会議では「チャレンジする価値があるのでは」とすぐ受け入れを応諾しました。さっそく実施した企業見学会では6～7人の就労希望者を受け入れました。



牧立也・執行役員統括工場長

## ■会話が苦手なAさん

職場見学や4月から就労体験を通じて仕事を始めたのは市内に住むAさんです。Aさんは対人関係を作るのが苦手な若者で、同社に来るまではユニバーサル就労の一環として富士市役所で事務の補助を行っていました。市役所での期間満了後、新たに静岡富士山工場での仕事を紹介されて働きだすとほぼ3か月

半で仕事に慣れ、7月中旬からはパートナー社員としてステップアップしていきました。

Aさんの仕事は出来上がった卵製品を箱詰めする最終工程の部分で、サッカーでいえばゴールキーパーのような大切な仕事です。1人でこなさなければならない仕事ですが、同工場では独り立ちするまでの2人での作業時間を、他の方より少しだけ長くしたそうです。周囲には40～50代の女性が8人いて一緒に仕事をしますが、母親やお姉さんなどの年齢に近い女性たちとの交流が良かったのか、最近では対人関係にも少しずつ気配りできるようになってきたそうです。牧統括工場長は「はじめに来た時は下向きだった目線が、最近では上向きになってきました」と変化を喜びます。

## ■仕事ができることがありがたい

Aさんは「ライン作業なので流れに遅れないようにしなければなりません、入社当時より慣れてきて遅れる回数は減りました」と話します。市役所での仕事と比べ「前は職場体験という感じでしたが、今は働いているということを実感しています」と前向きな感想がありました。そして「以前は家にいるのが当たり前で、散歩するほかは何もすることがありませんでしたが、今は仕事ができることがありがたいと思っています」と満足そうでした。仕事がフルタイムになり「休みの日は体を休めるため、前のように散歩に出かける必要もなくなりました」という一方、ユニバーサル就労支援センターや市役所の仕事で身

についてのこととして「通うという習慣ができて良かったです。車の運転にも慣れてきました」と話しています。

## ■2人目も内定

同社では、Aさんがまだまだコミュニケーションをとるのに不安を感じているようなので、周囲の社員と一緒に食事をするようにしてもらうなど、Aさんに孤独を感じさせないよう工夫しているそうです。「これまで意思疎通はメールだけだったのに、最近では周囲の女性たちと話をするようになりました」と塚原健次・管理部部長も喜んでいきます。

同工場では2人目のユニバーサル就労のパートナー社員の採用も決まりました。同社ではこれからも地域貢献・社会貢献の一つとして働きづらさを抱える人たちを採用していく方針だということです。



ケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場  
＝富士市大淵